

※情報解禁は2022年1月6日 午前4時となります。

企業として、いま、社会に伝えたいメッセージ

宝島社 企業広告 1/6(木) 掲載

「男でも、首相になれるの？」

ファッション雑誌販売部数トップシェア(※)の株式会社宝島社(代表取締役社長:蓮見清一、本社:東京都千代田区)は、2022年1月6日(木)に、企業広告「男でも、首相になれるの？」を朝日新聞朝刊(全国版)・日刊ゲンダイに掲載します。また、別テーマの企業広告「男女平等 学歴不問、能力重視 利益は社員に分配するあたりまえだろ。」を読売新聞朝刊(全国版)に掲載します。

弊社では、商品だけでは伝えきれない“企業として社会に伝えたいメッセージ”を、企業広告を通じてお伝えしたいという思いで、1998年より企業広告を開始しました。これまでに数々の広告賞をいただいております、Yahoo!ニュースのトップに掲載されるなど、さまざまなメディアで話題となっています。

今回の企業広告は、新しい年の始まりに改めて考えたいことをテーマに2ビジュアル3紙に掲載します。

宝島社は今後も、企業として社会に伝えたいメッセージを、企業広告を通じて世の中にお伝えしてまいります。

※日本ABC協会 雑誌発行社レポート2021年上半期(1~6月)より

「男でも、首相になれるの？」



【掲載媒体】

- 1/6(木) 朝日新聞朝刊(全国版)
日刊ゲンダイ
(見開き 全30段)

【制作スタッフ】

- 企画:宝島社+電通
- エグゼクティブ・クリエイティブ・ディレクター:古川裕也
(株古川裕也事務所)
- エグゼクティブ・クリエイティブ・ディレクター:磯島拓矢
(株電通)
- コピーライター:上田浩和(株上田家)
- コピーライター:小山佳奈(株上田家)
- アートディレクター:今井祐介(株電通)

【広告意図】

ジェンダーをはじめとする、世界中のさまざまな課題。

解決が難しいと思えるものも、実はわずか16年という時間があれば、解決できる。

重い腰をあげることができれば、あっという間に常識は塗り替えられる。

2022年。新しい年の始まりに、新しい世界を生み出そうとする人の背中を少しでも押せればと思います。

宝島社のこれまでの「広告」の一部を紹介します。～「商品」では伝えきれないメッセージを「広告」で～

<https://tki.jp/company/ad>

2021年9月

**「Yahoo!ニュース」TOPにも
掲載され、話題になりました**

企業広告「国民は、自宅で見殺しにされようとしている。」



2021年5月

企業広告「このままじゃ、政治に殺される。」



2021年1月

企業広告「暴力は、失敗する。」

【受賞】
2021 日経広告賞(出版・コンテンツ・教育部門 優秀賞)



2021年1月

企業広告「ねちよりんこ、ダメ。」

【受賞】
2021 朝日広告賞(準朝日広告賞)



2016年1月

企業広告「死ぬときぐらい好きにさせてよ」

【受賞】
 2016 読売広告大賞(グランプリ) 2016 ADC賞
 2015 朝日広告賞(グランプリ) 2016 TCC賞
 2015 朝日新聞読者賞 2016 読売出版広告賞(審査員特別賞)
 2016 日本新聞協会 新聞広告賞 2016 JAA広告賞(新聞広告部門 メダリスト)
 (広告主部門・本賞) 2016年度グッドデザイン・ベスト100
 2017 JAGDA賞



宝島社のこれまでの「広告」の一部を紹介します。～「商品」では伝えきれないメッセージを「広告」で～

<https://tkj.jp/company/ad>



2009年

企業広告

「女性だけ、新しい種へ。」

【受賞】

2009 朝日広告賞(準朝日広告賞)

2010 毎日広告デザイン賞(最高賞)



2003年

企業広告

「生年月日を捨てましょう。」

【受賞】

2003 朝日広告賞(出版・学校部門賞)

2004 読売出版広告賞 金賞

2003 毎日広告デザイン賞(出版部門賞)

2003 日刊スポーツ アドグランプリ

(カラー広告部門 インパクト賞)

2003 広告批評年間ベストテン 新聞3位

2003 スポニチ広告大賞(カラー部門 優秀賞)

2004 グッドデザイン賞(コミュニケーションデザイン部門)



2002年

企業広告

「国会議事堂は、解体。」

【受賞】

2002 朝日広告賞(朝日広告賞)

2002 毎日広告デザイン賞

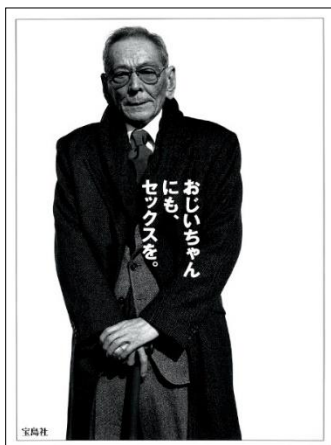
2002 日経広告賞(部門賞)

2002 TCC賞

2002 ADC賞

2002 読売広告大賞 金賞

2004 グッドデザイン賞(コミュニケーションデザイン部門)



1998年

企業広告

「おじいちゃんにも、セックスを。」

【受賞】

1998 朝日広告賞(準朝日広告賞)

1998 毎日広告デザイン賞(優秀賞)

1998 読売出版広告賞(書籍部門賞)